

# 第3回 あいちロボット産業クラスター推進協議会 委員会の論点整理

## 第1回委員会での主な意見 (H26.11.18)

- 【当地域が取り組むべき事項】**
- ロボットを実証評価する場を構築し、研究開発や実用化を促進すること
  - ロボットの安全に関する基準を自ら作るつもりで臨むこと
  - ロボットを開発する立場と利用する立場を橋渡しし、新たな市場を生み出すこと
  - 利用する側がロボットに対する正しい認識を持つことやデザイン手法の開発
  - ロボットを利用する場に関する規制緩和やロボット特区等を国に提言していくこと
  - ロボットに関するイベントの開催や人材育成

## 第2回委員会での主な意見 (H27.5.25)

- 【実証評価の場の提供、マッチングについて】**
- ロボットのトライアルができる場、ロボットと一緒に生活できる実証フィールドが必要。
  - マッチングを通じて具体的なプロジェクトを組成すべき。
- 【規制緩和や特区をはじめ国への提言について】**
- 近未来技術実証特区を活用し、ドローンの実証実験場を増やすべき。
  - リハビリ支援ロボットの事業化に県が介在し円滑に進めてほしい。
- 【安全の基準づくりや利用側への啓発について】**
- 中小企業で利用されるよう、需要を創出するような働きかけが必要。
  - ロボットで現場が明るくなるようにしていきたい。
- 【イベント誘致、人材育成、研究開発について】**
- ロボカップ2017世界大会の誘致を成功させたい。
  - 実用的なロボット開発ができる若手人材の育成が必要。
  - ロボットを普及させるためには、システムインテグレータの養成が重要。

## 平成27年度 取組実績 (H28.2.29時点)

- 1. 実証評価する場の構築**
- (1) 愛・地球博記念公園に加え、名古屋港埋立地、矢作川浄化センターを実証フィールドとして提供開始。  
・ 利用実績：23社・団体、55回実施
- 2. 研究開発や実用化の促進**
- (1) 国立長寿医療研究センターとの連携による「あいちサービスロボット実用化支援センター」を開設  
・ 利用実績：相談件数32件、見学者数350名
- (2) 新あいち創造研究開発補助金による支援  
・ 採択件数：全78件のうちロボット分野8件
- 3. 安全技術開発の支援**
- (1) 安全対策に関する開発者向け研修会の開催  
・ 参加者数：15名(3回シリーズ)
- (2) 国際安全規格認証の取得支援  
・ セミナー参加者数：29名  
・ 専門家派遣企業数：3社
- 4. 開発者と利用者との協働体制の構築**
- (1) ワーキンググループ(「医療・介護」「製造・物流」「無人飛行ロボット」)の運営(全10回開催)  
・ 参加者数：487名  
・ 協議会会員数：299社・団体
- 5. 規制緩和やロボット特区等の国への提案**
- (1) 近未来技術実証プロジェクトの推進  
・ 平成27年8月28日付けで国家戦略特区に指定  
・ 実証プロジェクト報告会の開催(3回)：参加者数296名
- 6. イベントの誘致・開催**
- (1) 県内外展示会への出展支援  
・ 出展展示会：メカトロテックジャパン、国際ロボット展、国際福祉機器展、建設技術フェア 等  
・ 出展者数：延べ13社・4大学  
・ 商談件数：112件
- (2) 「ロボカップ2017」の誘致支援  
・ ロボカップ2017名古屋世界大会の開催決定

## 平成28年度 取組計画【新規】

- 1. リハビリ遠隔医療・ロボット実証推進事業**
- 近未来技術実証プロジェクトの「リハビリ遠隔医療・ロボット実証プロジェクト」を加速させるために、「リハビリ遠隔医療支援システム」や「リハビリ支援ロボット」について、県内医療機関での実証を支援する。
- 2. 「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト**
- 次世代成長分野における産業ニーズの課題解決に向けた新たな研究プロジェクトテーマを設定し、大学等の研究シーズを活用した産学行政連携の共同開発「知の拠点あいち」重点研究プロジェクトを推進する。

## 第3回委員会の論点

1. 研究開発プロジェクトについて
2. 人材育成について
3. 新規ロボットユーザーの創出について
4. イベント(ロボカップ等)の開催について